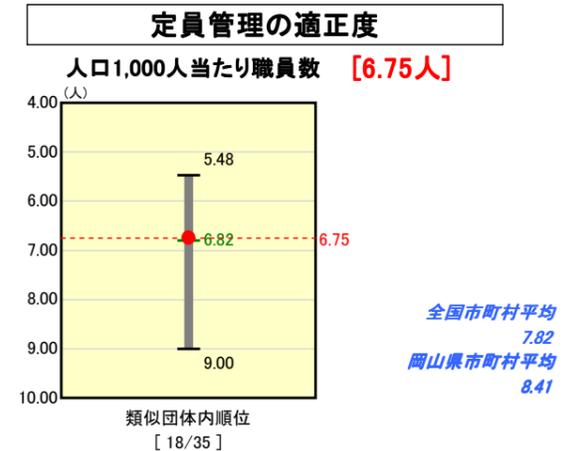
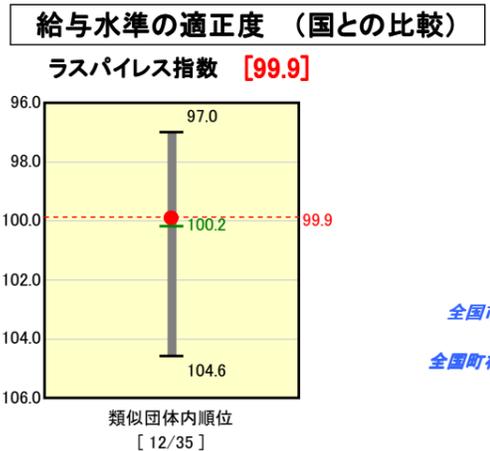
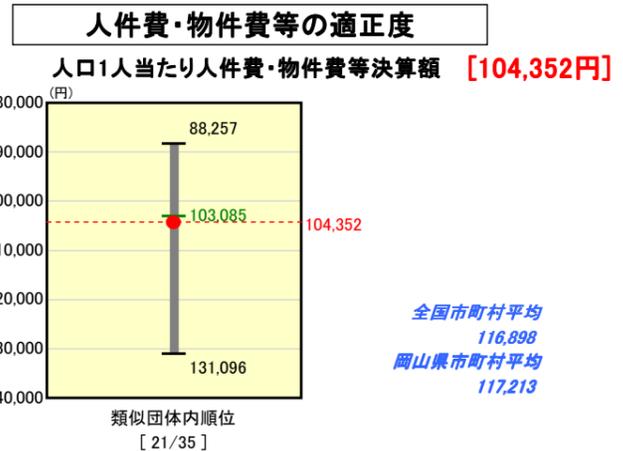
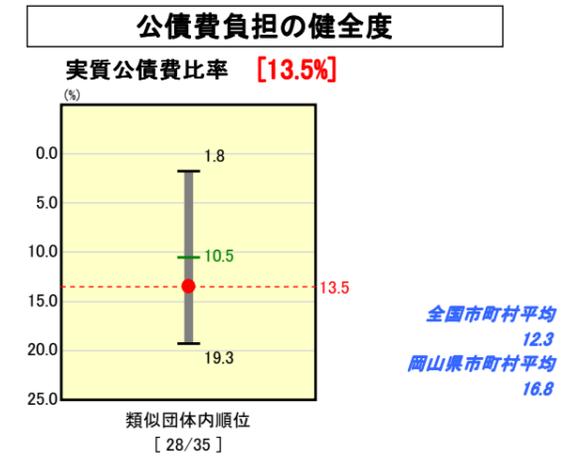
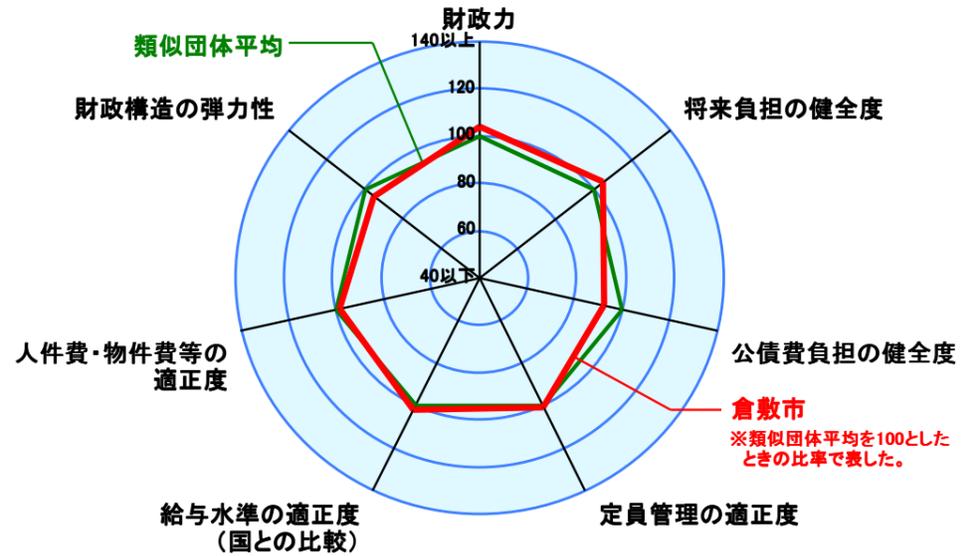
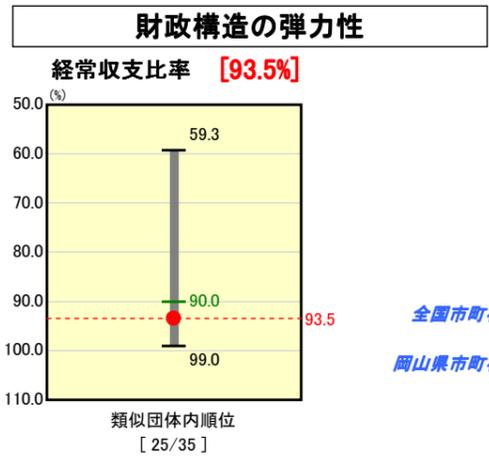
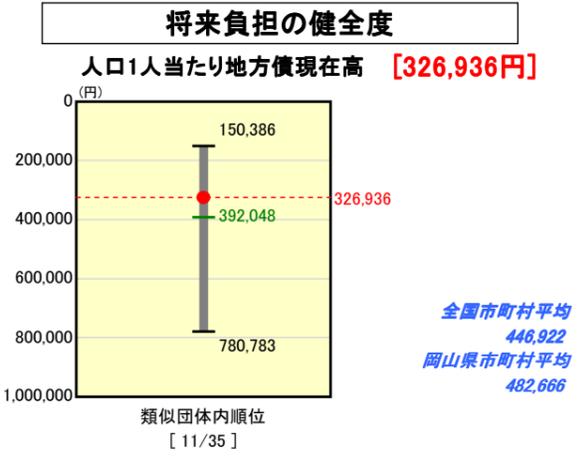
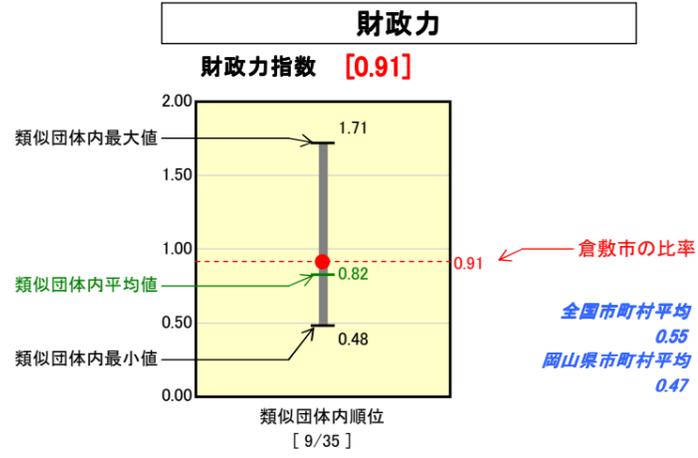


# 市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

## 岡山県 倉敷市

|      |             |                 |
|------|-------------|-----------------|
| 人口   | 472,670     | 人(H20.3.31現在)   |
| 面積   | 354.71      | km <sup>2</sup> |
| 歳入総額 | 163,256,520 | 千円              |
| 歳出総額 | 159,967,069 | 千円              |
| 実質収支 | 2,417,029   | 千円              |



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

### 分析欄

財政力指数…本市は、平成9年度に普通交付税の交付団体になって以来、財政力指数は、一貫して低下してきたが、平成18年度以降、景気回復に伴う市税の増収等により増加傾向にある。平成20年度後半からの景気後退に伴う企業業績の悪化により市税が大幅に減少する見込みであり、今後は、財政力指数が低下していくことが予想される。そのため、職員数の削減(平成18年度から平成22年度までの5年間で400人削減)などによる人件費の縮減や事務事業の見直しなどによる経費の節減に努めるとともに、地域経済の活性化を図る取組みを積極的に実施していく。

経常収支比率…前年度に比べて扶助費や繰入金などの増加により2.6ポイント上昇、93.5%となり類似団体平均を上回っている。平成20年度も同様に扶助費等の増加が見込まれることから、各種収納金の収納率向上、行政改革の更なる実施による財源の確保と経費の削減、市税減少の歯止めとなる地域経済活性化に向けた取組みを実施し、経常収支比率の改善を図っていく。

ラスパイレース指数…指数は99.9であり、類似団体平均より、0.3ポイント低い数値である。平成15年度から平成20年度まで、類似団体平均値を下回る水準を維持してきたが、今後も一層の給与の適正化に努める。

実質公債費比率…類似団体平均を上回っている。平成21年度に公債費のピークを迎える下水道事業への繰り出しが増加するものの、普通会計における公債費は減少する見込みであり、今後とも既借入高金利利債の借換えによる利子負担の軽減や新規発行の抑制に努める。

人口1人当たり地方債残高…類似団体平均を65,112円下回っている。平成21年度から22年度にかけて市民交流センター等施設の建設事業を予定しており、新規の起債発行が見込まれるが、他事業における起債の発行抑制を行い、現状の水準を維持するよう努める。

人口1,000人当たり職員数…平成18年3月に策定した第2次定員適正化計画(平成18年度から22年度までの5年間で400人削減)に対し、平成20年度までに計画を上回る243人を削減しているが、引き続き目標達成に向けて職員削減に努める。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額…類似団体平均に比べ1,267円上回っているが、前年度より179円低下している。今後も、人件費について更なる減少を見込んでおり、物件費についても縮減に努める。